平成２９年度　県立広島大学・宇品公民館連携講座

宇品カレッジ Ⅱ期

近世城下町成立の謎に挑む

―広島と福山―

［全2回］

◆第１回　１１月１５日（水）

広島市郷土資料館　主任学芸員　篠原達也

「広島城築城のベールを剥ぐ―「島普請」をめぐって―」

天正 17 年（1589）から始まる広島城築城では、毛利輝元は自ら「島普請」と称した基礎工事から行ったと考えられてきました。しかし、近年ではこの説の見直しが進み、「島普請」について語った輝元の書状は築城の４年間にさし出されたもので、「島普請」とは広島ではない別の島で行われた工事を指す可能性が極めて高くなりました。近年の研究成果から、広島城築城の実像について迫りたいと思います。

◆第２回　１１月２９日（水）

県立広島大学　教授　鈴木康之

「芦田川河口域の中世と福山城の築城」

元和５年（1619）、水野勝成によって福山城の建設が開始されるまでの芦田川河口域の状況には不明な点が多く、葦の生い茂る荒れ地だったとも言われてきました。ところが近年の研究によって、この地域には築城以前にいくつかの集落が存在し、地域経済の拠点として栄えていたことが明らかになってきました。近年の研究成果から、福山城がなぜこの場所に建設されたのかを考えてみます。

時　間：両日とも１０：３０～１２：００
場　所：宇品公民館　４階　研修室１
対　象：どなたでも（全２回参加できる方）
定　員：５０名（先着順）
参加費：無料
申込み：１０月１日（日）より受付開始
　　宇品公民館へ来館、または電話で
主　催：県立広島大学・宇品公民館

問い合わせ：（公財）広島市文化財団　宇品公民館
南区宇品御幸４丁目１番２号　Tel・Fax　２５３－２５２９